

【ねがいましては】

第72号

平成7年2月28日

共和珠算学習塾

「トマトとメロン」

トマトにねえ いくら肥料やったってさ メロンにはならねんだな
トマトとね メロンをね いくら比べたって しょうがねんだな
トマトより メロンのほうが高級だ なんて思っているのは 人間だけでね
それもね 欲のふかい人間だけだな
トマトもね メロンもね 当事者同士は 比べも競争もしてねんだな
トマトはトマトのいのちを 精一杯生きているだけ
メロンはメロンのいのちを 精一杯生きているだけ
トマトもメロンも それぞれに 自分のいのちを 百点満点に生きているんだよ
.....

という 相田 みつをさんの詩があります。(にんげんだもの～文化出版局)

受験が近づき、生徒たちの希望もあり、毎朝6時に教室のカギを開け、7:50分まで真剣に向かうみんなの姿に、精一杯の姿に、私は心いっぱいエネルギーを受け取ります。彼らすべてが生きていることの意味を感じ取っていたようです。周りの方々の温かい応援をいただいていることもあわせて感じ取っていたようです。毎朝5時、お母さんは起床、子に朝食を摂らせそして塾まで送ってくれる.....

机に向かって得たものより、より深みのあるものを手にしたことと思います。「がんばれ」と声をかけるのはたやすいこと、「どうか合格しますように」と手を合やすのも簡単なことです。「一緒に生きたるでー」かな.....と、思い続けてみて、「結構くたばった」というのが正直な気持ちです。

受験というものが人の成長過程の中で現実への入口だとすれば、私はそれを「○○○だったな」という懐かしさのあるほのぼのとした思い出にできればいいかなと思います。

皆さんには、この小さな教室がどのように映ったか、私には知る由もありません。

しかし、みんなの「がんばり」という事実は、きっと下級生たちにも良い影響を与えたようです。何がどうなったのか、この3学期の期末試験は、ちょっとちがった雰囲気のようにです。

まあ、勉強、勉強と、勉強のことばかりですが、成績が上がったからよかったというのではなく、それとは関係なく、精一杯に生きたよという真実に「オッケー、よくやった」と、褒めてやりたいと思います。

3月の予定

4日(土) 検定試験申し込み締め切り

18日(土) 4級～10級 検定試験・・・共和珠算塾

19日(日) 3級以上 検定試験・・・中央商業高校

*春休みの予定に関しては、別にお手紙でお知らせします。

*ここ最近、学習塾のチラシが目立つようになりました。

当教室でも地域の小さな塾として学習科を設置しております。

勉強の土台作りに重点を置きながら、和やかなムードを大切に行っております。

また、珠算学習の分野でも、珠算力・暗算力はもとより、集中の継続の面において、かなりの差が生じることを、今回の高校受験で確認できました。日本古来のこの習い事に少なくとも、誇りを感じた次第です。